

高等学校

教科【外国語】

単元【英語コミュニケーションⅡ：地域の特色について意見交換】

主体的・対話的で  
深い学びのポイント

英語でのポスター発表に加え、ブレイクアウトルームによるグループ活動を活用することで、海外の生徒とのコミュニケーションの質が高まり、学びが深まる。

ICT活用のポイント

顔が見えるポスター発表を行うとともに、カメラ越しに紹介するものを見せながらチャット機能を併用することにより、4技能をバランスよく活用した学びに繋がる。

使用する  
ICT機器

P C、タブレット等

使用するアプリ・  
クラウドサービス等Zoom(ブレイクアウトルーム機能)  
Google Workspace (Classroom、Jamboard)クラウド  
の活用☐教材の配布・回収等  
☒生徒の学習状況の把握☒資料等の共有  
☐その他 ( )本時の  
ねらい

英語で地域や学校の紹介をわかりやすく伝え、日本とニュージーランドの文化や日常生活の違いについて理解し、多様な視点で考えることができる。

主な学習活動  
(学習場面)

I C T の活用・留意点等

評価

導入

○本時の目標を  
確認する **一斉**

Zoomでニュージーランドとつなぎ、本時の目標を確認する。

○姉妹校との  
あいさつ

本日の日本とニュージーランドの天気や時間、参加生徒の状況等について確認する。

展開

○ポスター発表  
**一斉**Zoomにより、メインカメラ前でグループごとにポスター発表を行う。  
・発表後、メイン画面での質疑応答を行う。  
※ 英語が聞き取りづらい場合等は、教師がサポートする。  
  
**指針2**

○意見交換

**個別****協働**ブレイクアウトルーム機能により、グループに分かれて、意見交換を行う。  
・学校生活について、授業、服装、校舎、昼食、校則、流行等を紹介し、違いを見つける。  
・音声で伝わらない場合は、チャット機能を活用して意思疎通を図る。  
  
**指針3**

○振り返り

**個別**グループ内で、本日の主な意見をまとめ、後日、クラス全体で共有する。  
**協働**・Jamboardにより、個別の意見をグループ内で分類して順位付けを行う。  
**クラウド**  
**指針4**

終末

○本時のまとめ  
**一斉**

代表生徒が日本とニュージーランドの違いについて学んだことを、お礼の言葉とともに英語で伝える。